

慢性的ギックリ腰 補陰湯など服用

Q 五十歳、男性。タクシー運転歴二十数年になります。この間、三回追突され「むちうち症」の

診断を受けました。疲れてくると首、背中、腰がパンパンに凝ります。七年前にオートマチックの車に変えたころから体の右側に症状が強く出て、手がしびれて字が書けなくなったり、右の肩甲骨や下肢の痛みが起こり、ちよつとした動作でギックリ腰になります。

とも聞いているが、背景因子として十分考えられる。

平素から腰に負担のかかっている人が心理的きっかけでギックリ腰になったような場合には桂姜草棗黄辛附湯（けいきょうそうそうおうしんぶとう）がまず薦められる。オートマチック車にしてからの変化は、おそらく片足だけの操作が腰や背骨をねじらせているためではないかと思う。

A ギックリ腰はドイツ語で「魔女のひとつき」との表現がされるほど、ウツと呼吸も止まるほどの痛みを伴うものである。骨や筋肉と関連があるのはいうまでもないが、発病に「心理的要素」が多いのも事実である。質問者は「不況や子供の進学のこととギックリ腰は関係あるか」

去杖湯（きよじょうとう）の別名を持つ芍薬甘草湯（しゃくやくかんそうとう）は頓服（とんぷく）として即効性がある。血行不良や老化に伴う慢性的なギックリ腰には調榮活絡湯（ちようえいかつらくとう）や補陰湯（ほいんとう）などが使われる。